

中国農村金融改革における土地制度改革の役割

一橋大学大学院生 張焱

中国では 2003 年から農村金融改革が本格化してきた。しかし、金融機関の利益を重視していないため、資金流出、農家や農村企業の多くのニーズを満たさない等、改善の見られない問題も少なくない。農村金融の当面の問題は農家の担保物不足のため、金融機関が貸出に消極的であること、より本質的な問題は農家の増収緩慢である。この報告では現行貸出制度、農家収入の諸要因に対する検討に基づき、農村金融システム改善に対する現行の農村土地制度改革の必要性を説明する。

第一に、農村金融当面の問題—借り手の担保不足、及び農地担保の補完作用について。現行の貸出制度では、農地担保金融が行われておらず、一般的な農家は、担保物が不十分で、正規金融機関からの安定した高額の借入は望めない。これを補完するため、小額信用貸出と共担保貸出などの制度が導入された。しかし、両者とも短期的で小額の貸出であるため、安定性と金額上の制約がある。今後、農地、及び農家の住宅用地に関する権利を担保物の範囲に入れるならば、農村金融に対する当面の借り手における担保不足問題は大幅に改善できる。

第二に、農村金融における本質的な問題—農家の増収緩慢、及び農地改革の役割について。日本農村、及び米国のサブプライム住宅ローン危機の経験によって、農家の増収は農村金融の発展に対して極めて重要な要因と思われる。農家収入を主に影響する諸要因にたいして検討する。①農作物価格（関税・補助金）を人為的に高めると、農家の生産性を高めるモチベーションが抑制されてしまう可能性があり、また、高すぎる補助金は財政の重い負担となる。②主な農作物の単位面積の収穫量について、中国は世界で平均以上または上位に位置するといえる。農作物の種類によっては、大規模生産で単位面積の収穫量を増加させることは可能だが、倍増は難しい。一戸の農家に対して、大幅に収入を増加させられる可能性は低い。③土地国有化収用は農地を非農業化する唯一の方式で、非農業化による利益の大部分は政府に占有される。土地を放棄したい農家に対して十分な補償がないので、農民は徹底的に小作の生産方式を放棄しにくい。農家の収入を大幅に増加させて、市民との格差を是正するために、農家あたりの農地の倍増は最も実行可能な選択肢で、現行の農村土地制度は農家の増収に対する最大の制約となっている。